

辛才 マ 邇 儂

20240111

HEARTLAND:YaYeN
VOL.22 NAYUA
ME

HEARTLAND:YaYeN

キオ
マ
通
信

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

今回の表紙について：造形ではなく、影やSilhouetteの向こう側を
現そうとして、形にしてみました。

20240111

キオマの窓から..

Vol.22 NAYUA



今朝感じたことは… 白湯湯気の音、優しい？耳触り、アツチ

HEAR, AND:Yayen

第22回 「時間創造プログラム」

ユソセンヤン ありがとうございます。

「分極」と「極化」は意味合いが異なります。

今、世界では光の世界と闇の世界の分極が進んでいます。
さらに、分極した光の世界において、極化が進んで行こうとしています。

このままいくと、光の世界も闇の世界の極化して、ピークを迎えます。

これ以上極化しないところまで進むと、一気にリープ（量から質の変化）して、光と闇が統合し、絶対の光になる、と予想されます。

では、世界はいずれ絶対の光になって、闇がなくなるからとてもいいじゃないか、というわけにはいきません。

というのも、分極と極化が進む過程において、地球上において闇の破壊が激しくなっていく、人類を含む生態系そのものが激変していくからです。

つまり、絶対の光の地球になった時には、今の地球の在り方は跡形もなくなっているからです。

いつ絶対の光へのリープが起こるかということ、6次元の地球と、それに紐づいている8つの5次元の地球との繋がりが切れるタイミング、すなわち、2026年になってすぐです。

今年、地球は分極が進み、そして来年は極化が進み、そして2026年の初めにリープする、というわけです。

さて、そのことがわかっている私たちは、ただそれが起こるのを待つではありません。

私たちは創造の源です。

自らの決断と実行によって、2026年の初めのリープのタイミングの前に、年内に地球が絶対の光の星になる決断と実行をし、地球が光のラインを進み、光と闇が統合するように支援します。

今年、私たち一人ひとりの決断と実行が非常に大切です。
その決断と実行とは以下の6つです。

- 1) 自分たちは今、何に気づいているか？（目覚め）
- 2) その気づきから何を達成として受け取るのか？
- 3) それを受け取るのは、誰が、いつ、どこでか？
- 4) 受け取る達成の具体的な内容とは何か？
- 5) 達成を受け取る時の五感の体験とは何か？
- 6) 達成を受け取るために今からどのような準備ができるのか？

です。

この6つを決めて、実行することを、「時間創造プログラム」と呼びます。

私たちは、時間創造プログラムによって、地球がリープするタイミングを、2026年の初めではなく、1年以上早めて2024年中にするのです。

ユソセンヤン ありがとうございます



今朝感じたことは…すべてがちゃんと進んでいる

第22回 まいにちのコトハについて

ユソセナシマ ありがとうございます。

コトハの知識に基づき、朝の過ごし方や食事の習慣など、9つの日課を通じて、心や体を整えることについて、5歳の子どもにもわかるように表現した絵本が完成いたしました。

コトハの知識に基づいている、ということは、自然知性に沿っている。ということです。自然知性に沿った9つの日課を毎日続けていると、心の静けさや明るさを感じてきます。

この絵本についてより詳しく知っていただくために、おはなし会を開催いたします。



【日時】1月14日(日) 10:00~11:00

【開催場所】現地またはオンライン(Zoom)

現地：KIR今治事務所（愛媛県今治市石井町1-6-38）

オンライン(Zoom)：

お申し込み：

<https://kotoha.or.jp/2023/12/21/storytime/>



お子様とご一緒の参加も大歓迎です！！
お時間のご都合のつく方は、ぜひご参加くださいませ。

また絵本のご購入につきましては、
コトハ・インテグラルリサーチ ホームページご購入フォームから、ご購入可能です。

<https://kotoha.or.jp/2023/12/21/calendar/>



ユソセナシマ ありがとうございます。



今朝感じたのは…猫のなめらかさ

植物から自然知性を学ぶ

ロヲマ

第22回 「畑の王子様～完結編 愛の響き

自分を手放し、永遠の願いを思い出す物語」

ユソセロヲマ ありがとうございます。

昔々、愛の国に畑の王子様という人物がいました。

彼は愛を知りたくて愛の国にやって来たのです。本や映画、歌、人々の話から愛については情報として知っていましたが、実際に愛を体験し、その真実を理解したいと願っていました。

畑の王子様が中学生の時、初恋をして、その溢れる感情を詩にしてノートに綴りました。詩だけでは情熱を抑えきれなかった彼は、歌にして曲を作り、それで自身の思いを伝えました。好きな人ができる度に、王子様は曲を作り、カセットテープに録音してその人に渡しました。

でも、曲は良いと言われるものの、彼を好きだと言ってくれる人には出会えませんでした。私のためではなく、自分のために生きてと言われていた時、彼は大きな落胆を味わいました。これを10年ぐらい繰り返していたある日、彼の曲を聞いて涙を流してくれる人が現れました。これまで自身の想いを曲で表現することに執着していましたが、思いを素直に伝えることの大切さに気がついたのです。

それから畑の王子様は、執着だった音楽で気持ちを伝えることをやめました。

ある日、畑で空豆の収穫と種取りをしていた王子様は、虫に食べられ穴の空いた種に気づきこれらはもう使えないと思い、畑の隅に捨てていました。

しかし、空豆は地中から力強く芽吹いてきました。

虫に食べられ傷ついた空豆が、自身の純粋な思いを現していることを感じました。

どんなに傷ついたものであっても、どんな環境であっても、自ら芽を出す力があることを目の当たりにし、生きる力と美しさは内に秘められていて、それが愛だと知ります。

また、畑の王子様自身が経験したような、愛の打撃や失望からも、我々は回復し、進化することができる。そして真の愛は、自然と他者を惹きつける力を持つことに気づきます。

王子にとって、進化の苦しみは愛がわからないことでしたが、

空豆を見て愛の力を実感したのです。愛は響きであると理解しました。

愛とは響きだと気づいた王子様は、その溢れる響き一言葉、音色、味覚、美しさ、温もりなどすべて愛の響きを伝えるものであると確信しました。愛は共鳴する振動であると気づきます。

愛が最初にあり、響きでそれを感じ取るために五感が造られたのだと。

日常的に経験するすべての感覚に愛を感じ、表現することが、愛の多様性と気づきました。

愛を感じ表現するためには自分という執着を手放し、心を開く必要があることを感じました。

畑の王子様は、愛を伝えることを決めて、愛を拡げ創造しようと決心しました。

私たちの心の中で愛の響きを鳴らすことで、世界を愛で満たすよう願いました。

実のところ、長年にわたる愛がわからないという進化の苦しみは、

真の願望を思い出すことだったのです。

人々が愛の響きを具現化し、幸福が拡大する世界の実現。

畑の王子様は、自分という執着を手放し、永遠の願いを思い出しました。

ユソセロヲマ ありがとうございます。



今朝感じたのは…朝霧抜け 新たな道へ 気持ち躍る

第22回 大三島の水

ユソセキマレ

ありがとうございます。

大三島も冬本番な感じがいたします。雪こそは積もることはありませんが、地域によっては冷え込みが厳しいところがあります。

大三島は今治市との合併前は島の真ん中を東西に二分するように、大三島町と上浦町と分かれていました。

大三島は地図でも見て分かるように、島のほとんどが山となっていて平地は少ないです。

集落があるところは、谷や土砂が堆積した平地に多くあります。

そして、山からの水が集まることが集落ができる要因となっているようです。

島に人が住むということは、まずは水があるということがとても大切です。

大三島はこの山々があることで、水に恵まれ人が昔から定住してきました。

現在は明治期の木々の伐採による水不足から台ダムの建設で水は確保はされていますが、鎌倉時代以前は山々には広葉樹などの原生林が広がっていました。

それが水の源となっています。

その原生林を守るために昔の人は山を御神体として祀ってきました。

私たちが生きていく上で大切なことを昔の人は知っていたのですね。

ユソセキマレ

ありがとうございます。



第22回 「祝福と似顔絵」

ユソセシヲリ ありがとうございます。

先日ある講座に出ていて、自身が似顔絵師をしていた頃のことを思い出す機会がありました。似顔絵師として顔を描くことと祝福について探求し、発表したのです。

その発表を聞いてくださった方のお一人が「祝福について説明してください」と言われました。シヲリは言いよどんで答えられませんでした。

祝福について復習し、資料にまとめたにも関わらず、「自分の言葉で説明できません」と言うしかありませんでした。

その時のシヲリは「正しく伝えなければいけない」「今の自分にはそれはできない」と考え、そう答えました。

それが最大限できる誠実な対応だと思ったのです。

ここで起こっていたことは、「正しく答えることが良いことだ」という善悪の判断をし、悪である「間違える」をしないように自身を守る、ということでした。

つまり、自分に向かう思いであり、闇を生きていたということです。それは祝福と逆の方向です。

私たちは創造の源であり、五感を使って他者に光を放ち、いつ、どんな時も他者の進化を意図できます。

祝福というのはそれを常に生きている状態のこと、と言えます。

知識の言葉をなまじ知っているからこそ言葉に振り回されて自他を騙してしまうことはあり得ます。

同時に、間違わないように自分を守り隠すことによって、知識を大切にしているつもりが闇を生きることにもなり得ます。

「似顔絵は祝福である。祝福とは全ての人に光を観ようとすることである」

一片の迷いもなくそう答え、そう描くことができるようになること。

それが全ての存在の真の願望を達成することと同じなのだと思います。

ユソセシヲリ ありがとうございます。



第22回 ヒフミヨイムナヤコト（前号の続き）

ユソセメセン ありがとうございます

多くの方は、第1オン節（ヒフミヨイムナヤコト）に乱れがあります。

例えば、オンの順番が入れ替わったり、特定のオンの響きが弱い、あるいは強い、など、第1オン節に乱れが生じている人を「人間」と呼びます。

一方、第1オン節、「ヒ」から「ト」までの響きがすべて整っている人を「ヒト」と呼びます。人間は、ヒトになることで自身の内側の純粋な思いに目覚めることができます。

ユソセメセン ありがとうございます



第22回 わからないけどいいみたい

ユソセロラン
ありがとうございます

間接的に風の噂のようにちらほら耳に入ってきていたのですが、
年明けからさらに複数の方から直接

- おむすびが美味しくなった
- ごはんが美味しい
- お米が変わった？という声を聞くようになりました。

お米が美味しくなったのではというその理由ですが、どうしてなのか、わかりません。
ルートラーナ米の洗米方法は12月中旬から新たに試みておりましたが、お米の違いは？
わかりません。

精米&響かせをしていただいたルートラーナ米が、保管場所からキオマ食堂に移動した後は、
冷蔵庫で保管しています。

ほぼ週に一度小袋のお米を補充しているので、お米の収穫時期なのか、収穫場所なのか、
収穫後の経過時間なのか、精米の具合なのか、響かせの状況なのか、
お米の状態の程度なのかかもしれませんが、全く見当つかずわかりません。

もしかしてもしかして、
洗米や浸水や炊き上げや握り方など、タイミングや方法が関連あるのならば、
より一層精進いたします。

美味しくなって食べていただけているのであれば、お米もよろこんでいることでしょう。
純粋なルートラーナ米の本来の力そのままをお届けできるよう、
これからもつとめてまいります。

ユソセロラン
ありがとうございます



第22回 その22

ユソセチラテ

ありがとうございます。

先日、目を覚ますと、夜明け前のまだ暗い部屋を、月明かりが照らしていました。時計を見ると、とっくに6時を過ぎていて、「やっべまた寝坊やん、はよ火星行かな」と慌てながら、ほんの数秒間でしたが、その輝く月の様相、透明感から目が離せないでいました。

1月2日の新春レクチャーの中でンヤン先生が、昨年12月27日の祭祀のあと、月はこれまで地球と共に愛を生きてこれたことに感謝し、地球にさようならのメッセージを送っていました、とお話されたのをお聞きしたのもあってか、月の印象が、これまでとは何か違って見えるような気がしたのでした。手放すって、愛なんやなあ、みたいな。

月といえば、キオ通第1号の原稿に、チケカフェ開きますねん、のご紹介として、「水と月、海をテーマに始めてみます」というようなことを書いていて、それを元に、シヨリさんにお店のロゴを描いていただきました。

いくつか案を出していただいた中で、わしの中にある「水と月」、チケカフェのイメージってどんなんやろう…と思い巡らせているとき、ふと目に留まったのが、事務所のテーブルの、おそらくマグカップの底にこぼれてついたのであろう、コーヒーの染みあとでした。

その儂さ、繊細さ。気づく人しか気づかない、いまにも消えそうなのに、なぜか存在感と広がりがある。日常のなんでもなさ、ありふれた印象。その薄茶色の小さな円の中に、チケカフェのすべてが現れていた、なんて言うの大げさですが、これやねん、こんな感じ、とシヨリさんにお見せしてみると、瞬間で伝わり、そうして形になったのが、食堂入口のドアのガラスにぺっと貼ってある、小さな小さなカードです。

いま思うと、そのテーブルの染みあとの向こうに、自身の、そしてチケカフェの真実を、淡くともみていたのやもしれぬ、と思ったりしますが、どうやら。

続く。

ユソセチラテ

ありがとうございます。



今朝感じたのは…遠く淡く、春。

第22回 このごろの今治事務所

ユソセキリヲ

ありがとうございます

このごろのKIR、農業部門が今治農地探しのリサーチに出かけるようになりまして、たまに同行をしています。

その地域をただ見に行く、というとても簡単なリサーチですが、2回目までは、暗かったり、重かったり、湿っていたりと、完全な空振りでした。

3回目は、ふと立ち寄った場所で出会った方から、遊休農地を紹介いただきました。

お知り合いの土地とのことですが、「気に入ったら連絡してあげるから、とりあえず見てくれば」と、手書きの地図をくださり、行ってみると、のどかで明るい感じのする場所でした。

一連の出来事がドラクエみたいで、明るい兆し。今後が楽しみな今治農地探しです。

思い起こせば農業チームは、大三島を開拓し始めたり、みんなと稲を育ててみたり、お米の倉庫を修繕したり、冬休みもミーティングを重ねていたり、ほかにもたくさん、みんなで協力しながらコツコツいろいろやっていたなど。

それらのことの積み重ねが、明るい兆しになって、農地探しにも現れてきたのかもしれないと、仲間の地道な活動を誇らしく感じた出来事でした。

そして今後の私たちは、達成を受け取るまでにかかる時間を確実に縮めていくため、ついに「達成を目覚めとする」活動をスタートさせます。

それが本当にできるようになるまでの過程で、光の闇の極化が自身の中でも起こるかもしれないという怖さもあり、でもだからこそ、この先どんなことがあっても（それは辛いことかもしれないし、嬉しいことかもしれない）、自身と向き合い、手放していくことを今きちんと決めておこう、と自分と約束をしたナユアのメの始まりの今日でした。

それでは、次回は約2週間後のナユアのハ、満月の日にお目にかかれますよう。

本号も最後までお読みくださり、まことにありがとうございます。

（ちなみにナラユさんの連載は、次号は掲載予定ですので、どうぞご安心くださいませ）

ユソセキリヲ

ありがとうございます



今治畑の大根。ふくふくだなあ



今朝感じたのは…管が通れば、受け取るも与えるもなくなって、同じになっていくんだな

マ~のLINEスタンプで 指先から欣びを広げよう

♡ 絶賛発売中 ♡

コトハで「マ」は、真実、開く、明らかにする、という知識を現すオンです。

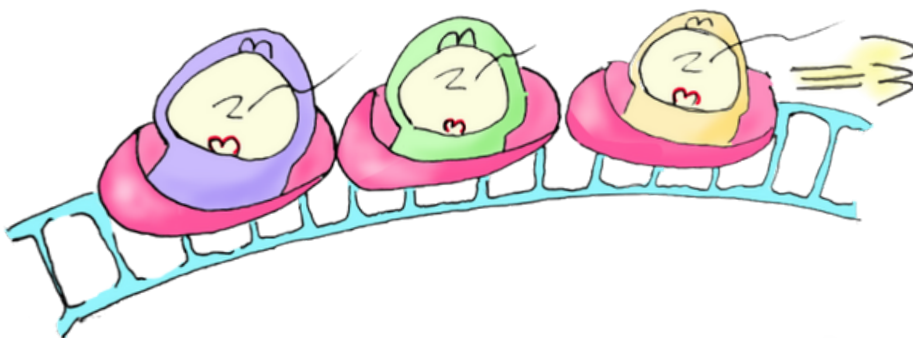
光の生命体であるマ~星人は、いつも心を開き、自身の内側にある欣び（よろこび）という真実を現しています。

マ~には「嬉しい」と、「とても嬉しい」の2つの感情しかありません。いつも無邪気に、自身の欣びを「マ~、マ~」言いながら、それを現し、明らかにしています。

マ~たちは、この地球上の至る所にいます。誰の心の中にも、そして外の世界にもです。

そんなマ~たちが、とっても素敵なlineスタンプとなりました。

よろしければマ~と一緒に、ご自身の欣びを、この世界に広げてみてください（マ~の右横のQRコードからどうぞ！）



[いつだって欣びがいっぱい♡マ~スタンプ1]

https://line.me/S/sticker/24538084/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail

[いつだって欣びがいっぱい♡マ~スタンプ②]

<https://line.me/S/sticker/24495397/>

[lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail://line.me/S/sticker/24495397/](https://line.me/S/sticker/24495397/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail://line.me/S/sticker/24495397/)

[lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail](https://line.me/S/sticker/24495397/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail)



KoToHa *Integral Research*